

総務民教委員会行政視察報告書

令和5年6月19日

境港市議会
議長 荒井秀行 様

総務民教委員会
委員長 景山 憲

下記のとおり行政視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察期間	令和5年6月2日（金） 13時15分～15時20分
2 視察先 及び内容	鳥取市 「鳥取市立南中学校区におけるICT教育の推進について」
3 視察委員	委員長 景山 憲 副委員長 平松謙治 委員 荒井秀行 加藤文治 伊藤康弘 柗 康弘 足田法行 安田共子 (委員外議員) 松本晶彦
4 視察経費	合計（9名）1,760円 （一人当たり 195円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 委員長報告	別紙のとおり

視察先対応者

【鳥取市議会】

西村紳一郎	議長
遠藤 全	参事兼調査係長
萩原真智子	調査係主任
安藤 義行	調査係

【鳥取市教育委員会事務局】

安本 雅紀	次長兼学校教育課長
米澤 武昌	参事兼指導係長
谷口 太郎（説明者）	主査兼指導主事

内容：

鳥取市G I G Aスクール構想について～南中学校区における I C T教育の推進～

- 1 鳥取市学校関係の現況及び南中校区の現況
- 2 鳥取市学校教育情報化推進計画について
 - (1) めざす方向性
 - (2) 具体的な取り組み
- 3 南中学校区における I C T教育について
 - (1) I C Tを活用したとっとり授業改革推進事業概要
 - (2) 学校における日常的な I C T活用
 - (3) 家庭学習での I C T活用
 - (4) 校務での I C T活用
 - (5) 学校と保護者間の連絡のデジタル化

鳥取南中学校区(児童生徒数：2,127人 教職員数：205人)

日進小(児童生徒数：207人 教職員数：26人)

美保小(児童生徒数：570人 教職員数：49人)

倉田小(児童生徒数：105人 教職員数：22人)

美保南小(児童生徒数：548人 教職員数：43人)

鳥取南中(児童生徒数：697人 教職員数：65人)

■県事業「I C Tを活用したとっとり授業改革推進事業【I C T活用教育推進地域】」

- ・2年指定(令和3・4年度)

G I G Aスクール構想により、県内全小・中・義務教育学校に、一人一台端末と高速大容量ネットワークが整備されることを受け、I C T活用教育に取り組む地域(中学校区)を指定し、外部企業(I n t e l , G o o g l e等)や大学と連携することで得られた知見を逐次全県に発信することにより、従来の学習方法にI C T活用を加えた新しい「とっとりの学び」を構築する。

- ・南中校区I C T活用推進部会(チーム会)を定期的を開催(年6回程度)
- ・公開授業研究会を開催(オンラインで発信)
- ・外部講師(西田S V)による指導助言

- ・G I G Aチャンネルでの情報発信(年2回)
- ・事例をまとめ、「とっとりICT活用ハンドブック(増補版)」や「鳥取市G I G Aスクール構想について Ver. 3」等に掲載

鳥取南中学校区は鳥取県内のICT活用教育推進地域でありフロントランナー・トップランナーとしてICT活用がもっとも進んでいる。

○家庭学習でのICT活用について

- ・コロナ禍への対応でタブレット端末の持ち帰りが進む(オンライン学習の実施)
- ・Eラーニング教材を家庭でも活用(新規eラーニング教材「ミライシード」等)
- ・G o o g l e クラスルームでの課題配信・諸連絡

○校務でのICT活用について

- ・クラウド活用(G o o g l e ドライブ)によるペーパーレス会議の実現
- ・採点補助システムによる採点業務の効率化(百問繚乱の導入)

○保護者連絡のデジタル化(オンライン化)について

- ・無料連絡網サービス「マチコミメール」の活用 【緊急連絡網→通常連絡】朝の電話対応が激減、自動集計により業務の効率化が向上、学校行事等の動画U R L等の送信などの効果があった

質疑(事前の質問とその回答)

Q1 端末持ち帰りのルールについて、学校単位で考えられたものなのか。
(回答)教育委員会が雛形を示し、それを参考にして各学校で約束やルールを考えている。

Q2 保護者向けの連絡やアンケート等の効率化への取組は。
(回答)マチコミメール(無料版)を活用して、保護者向けの連絡や出欠・遅刻連絡等を行っている。保護者向けのアンケートについては、G o o g l e F o r m s を活用することが日常的になり、業務の効率化につながっている。

Q3 偽の警告やフィッシング詐欺などの対策について。
(回答)通信ネットワークおよびタブレット端末(i P a d)では、フィルタリングソフト「C i s c o U m b r e l l a」を活用し、ウイルス対策やフィッシング対策をしている。

Q4 学習支援ツールの活用について

① 複数あるが、現在の利用状況は。
(回答)G o o g l e クラスルームでの課題配信や連絡、電子ホワイトボードであるJ a m b o a r d やプレゼン用スライド等を作成できるG o o g l e スライド等を授業内容に応じて日常的に活用している。

② 生徒で教え合う等、協同学習の状況は。

(回答)各学校が積極的に協働学習に取り組んでおり、J a m b o a r dやG o o g l eスライド等の協働編集機能やコメント機能等を効果的に活用している。

③ 学習時間、学力の向上に関して変化は。

(回答)全国学習・学力状況調査やとっとり学調等の結果について、今のところ顕著な変化はみられていないが、鳥取市10項目アンケート「タブレットを進んで使って学習している」については、南中学校区の肯定的回答率は全ての学年で市の平均値を上回っている。

④ 先生の負担軽減は図られているのか。

(回答)G o o g l eクラスルームでの課題配信や連絡を迅速・確実に行うことができ、教師の負担軽減にもつながっていると考えている。また、中学校では採点補助システムを活用し、定期テスト等の採点業務に係る時間を大幅に縮減することができた。

Q5 リモート授業について

①新型コロナウイルス感染症の影響で休校の続く中、学びを止めない為に個別の学習環境の整備、学習の活性化を進められたと思うが、臨時休校時にリモートでの全体学習で授業に参加した場合は出席扱いとなったのか。

(回答)臨時休校時のリモート授業は出席扱いとはなりません。欠席でもなく、出席すべき日数に計上しない扱いになる。臨時休校ではなく、濃厚接触者等やむを得ない理由で登校できずリモート授業を受けた場合も欠席ではなく、出席すべき日数に計上しない扱いとなる。こちらについては、学校長が認める場合に「オンラインを活用した特例の授業」として指導要録に記録する。

②不登校や、その他理由で学校にいけない学習障害のある生徒が、リモートで授業に参加した場合の出欠の取扱いについて。

(回答)鳥取県「不登校生徒等への自宅学習支援事業」を活用し、リモートで授業等も含めICTを活用した学習状況を総合的に判断し、校長が出席と認めた場合は、出席日数に計上している。この場合は指導要録に記録する。

Q6 「とっとりICT活用ハンドブック」について、教師間で活用状況に差が生じていないか。

(回答)全ての教職員に「とっとりICTハンドブック」を周知しているが、ICTの活用状況について大きな差が生じないように、ICT活用に関する教職員研修を充実させ、教職員のICT活用指導力の向上を図っている。

Q7 IoTの学校内での活用状況は。

(回答)市内9校(南中学校校区では2校)で、ロボット芝刈り機「ハスクバーナ」を活用している。アプリを使うことで、タブレット端末やスマートフォンと連携でき、校庭の芝刈りを自動で行っている。

Q8 今までの取り組みでの様々なデータの蓄積、課題があれば状況、この上で今後の方向性は。

(回答)南中学校区の研究のまとめから、下記のような成果と課題があった。

〈成果〉

- ・児童生徒の I C T活用スキルの向上(タイピング、カメラ機能活用、アプリ活用、協働編集等)
- ・児童生徒の表現力、発信力の向上(プレゼンや動画作成等)。
- ・協働学習場面での I C T活用が進み、児童生徒の関係性の向上にもつながった。
- ・教職員の I C T活用スキルが向上し、日常的に活用できるようになった
- ・ I C Tを活用した授業づくりの情報共有がすすんだこと。

〈課題〉

- ・ I C T活用についても教師の指示を少なくし、より学習者主体の学びへ転換することが必要。
- ・ I C Tを活用した授業改善について、教員間で継続して情報共有していくことが必要。

〈今後の方向性〉

- ・タブレット端末等をどういう場面で使えばより効果的なのか児童生徒自身が判断できる力を育てる。
- ・ I C Tの活用について、主体的に子どもたちが考え、選択し、より対話的で、より深い学びを実現したい。
- ・家庭学習との連動を図り、連続性のある学びを展開していきたい。
- ・メディアリテラシーや情報モラル、デジタル・シティズンシップについて継続して指導すると共に、保護者や地域を巻き込み、ともに学ぶ機会を設けていきたい。

所感：

今回の視察は鳥取県内の I C T活用教育推進地域でありフロントランナー・トップランナーとして I C T活用がもっとも進んでいる鳥取南中学校区の現況について説明を受けた。

基本毎日タブレットが持ち帰ることができる体制があり、児童生徒が日常的に学校だけでなく、家庭学習でも I C Tの活用がされ、情報活用能力向上の一助となっていると思った。鳥取南中学校区の学校の一部授業では鳥取市外の学校とオンラインでの交流なども増え、 I C Tが慣れ始めてきたと感じた。また児童生徒だけでなく、教職員の業務効率化や学校と保護者間の連絡等のデジタル化により、迅速・正確な連絡ができるなど教職員側、保護者側のメリットも多く感じた。このような ICT 先行地域での事例を元に本市でも協議・検討していく必要があると考える。